１　単元名「わかりやすく伝えよう　プレゼンテーション」
　　日本文化探訪　～江戸を感じるならここだ～

２　単元の目標

（総合的な学習の時間）

・フィールドワークの計画を立て、実施する。
　（地図を使い、都内の交通機関を利用しながら、目的地を巡る計画を立て、時間どおりに実施する。グループのメンバーと協力して行動する。）

・東京に残る江戸を探すことにより、日本文化に対する理解を深める。

（国語科）

・感じ考えたことから考えを広め、調べた事柄を整理し、効果的にプレゼンテーションする。

３　単元について

本校は帰国生が 3 分の 1 から半分を占めており、日本や日本文化について理解が浅い生徒が多い。帰国生でなくても、都内の寺社を巡ったことがある、というような生徒は少ない。現在の文化が、どのような文化の上に成り立っているかを知ることは、これからどのような文化を築いていくべきかを考える基礎となる。また、国際交流をしていく上でも自国の文化を相手に説明できることは重要である。このような観点からこの単元を設定した。

フィールドワークを計画・実施するのは、総合的な学習の時間とし、そこで分かったことを発表するのを国語の時間とした。

フィールドワークでは、その場所で見たこと、聞いたこと、感じたこと、を記録するようにし、またその場所の人にインタビューしたり、案内板を写真に撮ったりして調査をすることとした。また、学校に戻ってから、そこで知ったことをさらに確かなものにするために資料などを調べるようにさせた。たとえば、案内板や現地で手に入れた資料に書いてある言葉「権現造り」や「江戸の大火」などの意味を、さらに調べることによって、そこが江戸とのかかわりが深いことを認識したり、発表する上で一つのプロットとなっていくことに気づいたりすることを、意識した。このように知識を広げていく場面では、図書館の資料や司書教諭のアドバイスが有効に働く。

プレゼンテーションについては、今回は、内容のプロットを構成することと、コピー（キャッチフレーズ）を考えることを中心的な目標とした。発表そのものは、他教科でも個人のスピーチなどをよく行っており、多くの者が抵抗なくスムーズに行う。パワーポイントなどプレゼンテーションソフトを使いこなす者も多い。しかし、内容は「始め・中・終わり」といった一般的なものになりやすく、また調べたことを単純に並べがちである。今回は、聴衆を意識し、その興味を引くこと、また単に調べたことを並べるのではなく、自分たちが考察したことを効果的に伝えるためにプロットを考え、写真などはあくまで補助的に使うことを強調した。

４　指導計画

（１）総合的な学習の時間

第一次　日本文化探訪の目的について知り、その方法を学ぶ（1 時間）

（ビデオ NHK 番組「ブラタモリ」の視聴を含む。）

第二次　（宿題）ここに行けば江戸を感じられると思われるスポットを探してくる。

→　図書館で書籍の紹介があることを知らせる

第三次　グループでフィールドワークの計画を立てる（2 時間）

・宿題を持ち寄り、候補地を挙げる。

・地図上で場所を確認し、どのようなルートでまわれるか、どのくらい時間がかかるか予測する。

・計画を立てる。

→　教員を配置し、学校図書館も利用できるようにする。地域の図書館で借りることも勧める。

第四次　フィールドワークを実施する（半日）

・午前中は能・狂言鑑賞教室（港区南青山　銕仙会能楽研修所）

・11 時半よりグループ行動スタート。途中チェックポイントに立ち寄り、課題を解く（社会科教員作成）。チェックポイントは、泉岳寺、増上寺、神田明神、寛永寺。16 時、和田倉噴水公園集合。

（２）国語科

第一次　プレゼンテーションについてその目的と方法を知る（1 時間）

第二次　フィールドワークで得た情報を整理する。プレゼンテーションをする場所を決める。（1 時間）

第三次　プレゼンテーションをする場所を中心に、コンセプトマップを作成する。（1 時間）

→　図書館の資料を見ながら、コンセプトを深める

第四次　発表内容のプロットを構成する。（1 時間）

第五次　発表のための提示物を作成する。発表の練習をする。（2 時間）

→　図書館の資料を利用できるようにする

第六次　発表会を開き、相互評価する。（1 時間）

５　評価基準

本校は IB の MYP を導入しており、評価基準（ルーブリック　参考資料参照）をあらかじめ生徒に提示する。プレゼンテーションそのものはそれに従って生徒に相互評価させた。また、グループ活動や調査などに積極的に関わったか、プレゼンテーションの中で、個人がはっきり発表することができたかを、教師が評価する。